2027 年度

生命医科学部・生命医科学研究科

協定大学 派遣留学生　募集要項

【出願期間】

2026 年 12 月 1 日（火）～2026 年 12 月 14 日（月）17：00

※原則として、2027 年度秋学期から留学を開始するプログラムを対象としていますが、それ以外の時期から留学を希望する場合は、遅くとも留学開始希望時期の 6 ヶ月前までには出願を行う必要があります。

※留学を希望する場合は、出願前にまず生命医科学部事務室に相談の上、留学中や帰国後の履修計画について各学科・専攻の教務主任もしくは指導教員より指導を受けること。

※留学先の法制度等により、本要項の内容が変更となる可能性があります。

※災害や世界情勢、感染症等の拡大状況によって、協定校の募集状況、選考日程、選考方法を含め、本要項の内容および取り扱いについて、変更する場合があります。また、状況により、本学または本学部･研究科が派遣中止または帰国勧告等を当該留学生に下すことがあります。

書類提出先・問い合わせ先

生命医科学部事務室（医心館　G 階）
開室時間：月～金 9:00-17:00（11:30-12:30 除く）

留学中や帰国後の履修計画についての相談窓口

京田辺キャンパス教務センター　生命医科学部事務室（成心館）
開室時間：月～金 9:00-17:00（11:30-12:30 除く）
E-mail: jt-semjm@mail.doshisha.ac.jp

目次

学部間協定に基づく「派遣留学」とは 3
１．留学制度概要 4
２．留学の選び方 5
３．留学プログラムについて 6
４．協定校一覧 7
５．出願資格 10
６．選考スケジュール 10
７．出願時提出書類 11
８．語学能力 12
９．留学費用 14
１０．留学中の安全確保と危機管理 15
１１．留学決定後の諸手続き 16

学部間協定に基づく「派遣留学」とは

同志社大学の教育理念の一つは「国際主義」*1であり、多様な留学制度や研修プログラム、奨学金などを整えて、みなさんの留学や国際交流を積極的にバックアップしています。

さらに、生命医科学部・生命医科学研究科では、大学全体のプログラムとは別に、生命医科学分野の教育・研究機関として名高い外国大学と学部レベルで協定を結び、研究交流や学生交換を行っています。この、学部レベルの協定によって留学することを「学部間協定に基づく派遣留学」とよびます。

「学部間協定に基づく派遣留学」の制度は、基本的には「大学間の協定に基づく派遣留学*2」と同じですが、留学先が生命医科学部・生命医科学研究科と専門的な関心、研究分野を同じくしているため、留学先でもみなさんの専門分野の学習・研究を継続したり、発展させることが可能です。

「学部間協定に基づく派遣留学」では、短期（6ヶ月未満)、長期（1年以内）の留学の他に、本学と留学先の双方から二つの修士学位または博士学位の取得を目指す、ダブルディグリープログラム（以下DD）があります。短期留学は通年応募が可能ですが、長期留学およびDDの場合は出願期間が決まっています。この制度を利用して協定相手校に留学する皆さんには、本学部･研究科のいわば「代表」として赴いていただきます。それは語学力に留まらず、専門分野で一定の成績･能力基準を満たすかどうかが重要になります。皆さん一人ひとりの事情に即した挑戦の機会を一緒に作り上げていくことができれば光栄に思います。

生命医科学部･生命医科学研究科事務室

*1 他二つは「キリスト教主義」と「自由主義」

*2 大学レベルの協定によって半年間または1年間留学するプログラム。対象は同志社大学の全ての学部・研究科の学生。「外国協定大学派遣留学制度」として、年に2回（A日程、B日程）募集しています。問合せは国際課まで。

Ⅰ．留学制度概要

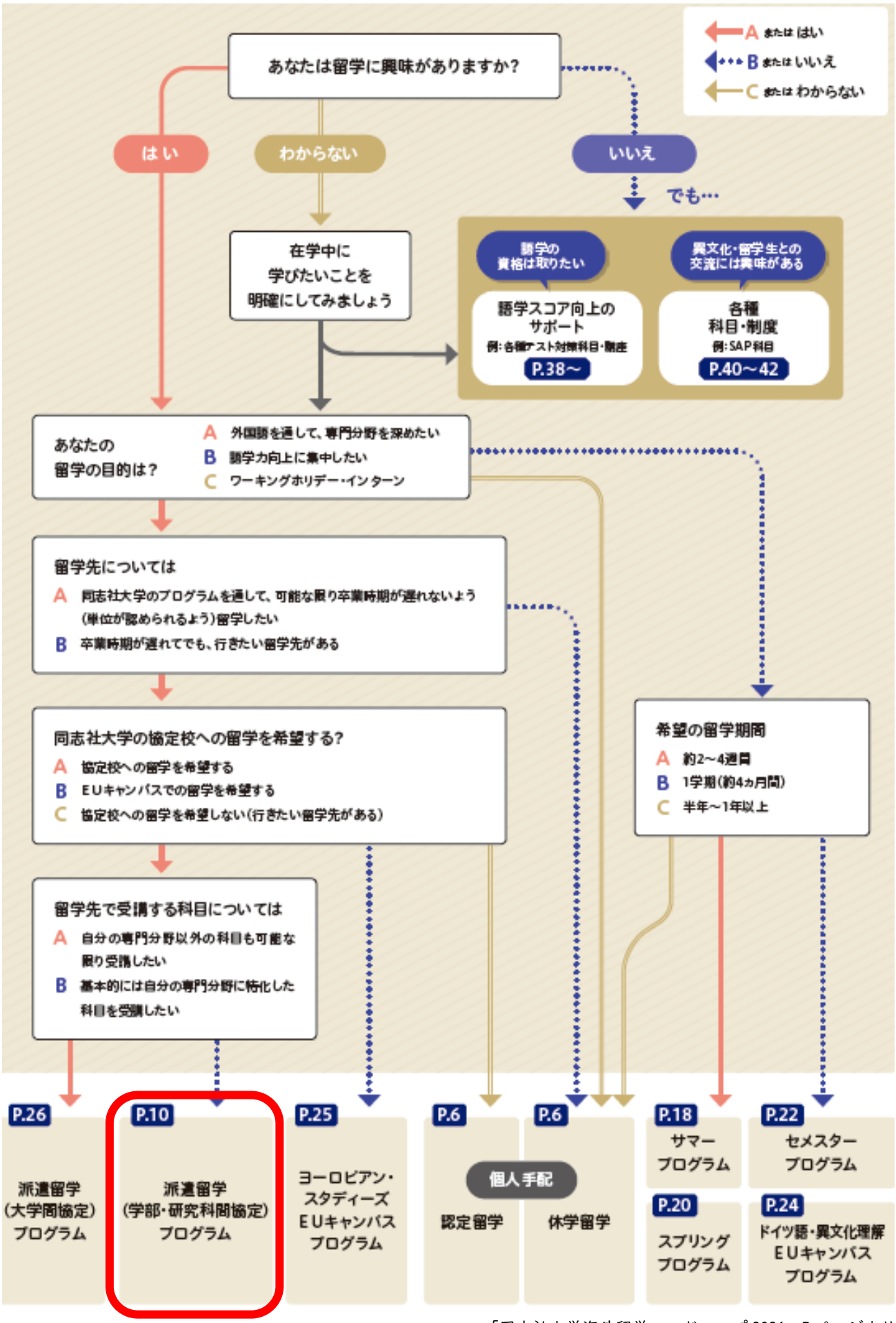
派遣留学	1セメスター/ 1年間	同志社大学が学生交換協定を締結している**海外の大学（海外協定校）で「留学先の言語で専門分野の学習や研究を行うこと」**が主目的のプログラムです。原則として、現地の大学で学部・大学院レベルの科目を履修します。**「大学間協定」（担当部署：国際課）**と**「学部・研究科間協定」（担当部署：各学部・研究科事務室）**の2種類があります。
認定留学	個人による	学生個人で手配し、本人からの申請に基づき、本学の審査・了承を得て、海外の大学またはこれに相当する高等教育機関に「在学留学」として留学する制度です。大学実施のプログラムではないため、基本的に本学のサポートは受けられませんが、留学期間は在学と見なされる他、留学先で取得した単位を単位認定申請できる可能性があります。
休学留学	個人による	学生個人で手配し、本学を休学して自主的に行う留学です。大学実施のプログラムではないため、基本的に本学のサポートは受けられませんが、留学先機関（大学や語学学校など）や留学期間を柔軟に選択することができます。

		卒業要件		留学に掛かる費用			本学を通して申請可能な奨学金制度
		留学期間の修業年限への算入	留学中に修得した単位の認定	学費		その他	
				本学の学費	留学先の学費	諸費用（例：住居費、往復渡航費等）	
履修科目による留学	サマープログラム スプリングプログラム セメスタープログラム ドイツ語・異文化理解 EUキャンパスプログラム 学部・研究科の科目 等	○	― 科目として登録するため、合格時に科目の単位を修得	○	○ （プログラム費用に含まれる）※	○ （プログラム費用に含まれる）	○
	ヨーロピアン・スタディーズ EUキャンパスプログラム	○	△ 一部は科目として登録するため、合格時に科目の単位を修得	○	×	△ （往復渡航費はプログラム費用に含まれない）	○
在学留学	派遣留学	○	○	○	× （[学費負担型]・ブリッジプログラムを除く）	○	○
	認定留学	○	○	○	○	○	○
休学留学		×	×	― 別途、休学在籍料の納入が必要	○	○	× （一部を除く）

※ドイツ語・異文化理解EUキャンパスプログラムは、留学先の学費が免除される。

「同志社大学海外留学ロードマップ 2026」6・7ページより抜粋

2．留学の選び方



「同志社大学海外留学ロードマップ 2026」5 ページより抜粋

３．留学プログラムについて

生命医科学部・生命医科学研究科が学生交換協定を締結している協定校への派遣留学プログラムについては、

（１）ダブルディグリープログラム（DD プログラム）

（２）学位取得を目的としない留学プログラム（ND プログラム）

の２種類のプログラムがあります。いずれのプログラムで留学が可能かについては、実際に締結している協定の内容により異なるため、学部間協定による派遣留学を希望する場合は、留学可能なプログラム類型についてもよく確認するようにしてください。

（１）ダブルディグリープログラム（DD プログラム）

【概要】

原則１年間～2 年間の留学で、本学のカリキュラムに加えて派遣先大学が定めるカリキュラムの修了を目指すプログラム。ダブルディグリープログラムによる留学が可能な協定校は、5 ヶ国 11 機関。※同志社大学大学院への進学が前提となります。

【特徴】

- ✓ 原則として、学部 3 年次の秋学期から 2 年間の留学期間を経て、標準修業年限（学部 4 年＋大学院 2 年）の計 6 年で、**(1)同志社大学、(2)派遣先大学**の 2 つの修士学位を取得可能
  ※協定内容によって条件が異なるため、標準修業年限を越える可能性もあります。
- ✓ 双方の大学において、専門分野を体系的に学ぶことが可能
- ✓ ダブルディグリー制度で留学する場合、留学期間中の同志社大学へ納入する学費は特別在籍料（15 万円/学期、30 万円/年）となる。

（２）学位取得を目的としない留学プログラム（ND プログラム）

【概要】

1 セメスター以上 1 年以内で協定校へ留学し、専門分野をより広く深く探求できるプログラム。学位取得を目的としない留学プログラムによる留学が可能な協定校は、8 ヶ国 18 機関。

【特徴】

- ✓ 留学開始時期・期間について、自らのキャリアプランに応じて柔軟に設定可能
  ※協定校によって状況が異なるため、事前に確認・相談が必要
- ✓ 短期間の留学を通して視野を広げることはもちろんのこと、比較的長期間の留学により、語学力だけでなく専門知識を磨くことも可能

4．協定校一覧

1．各大学の HP も確認してください。

2．“大学名”の★は、T.I.M.E. Association（欧州を中心とする理工系大学コンソーシアム)加盟校です。
所定の要件を満たした場合、ダブルディグリープログラム終了後、T.I.M.E. Label Certificate が授与されます。

3．“種別”について
DD…Double Degree（同志社大学と留学先大学、両方の学位取得を目指すダブルディグリー）プログラム
ND…Non Degree（留学先大学での学位取得を目的としない留学）プログラム
(E)…授業言語が英語のプログラム（一部の分野のみの場合もあるため要確認）

大学名	窓口教員	種別	学部		博士（前期）課程			博士（後期）課程		
			3 年	4 年	1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年
フランス										
エコール・セントラル国立理工科学院連合（EC） ★										
リール	松川（電気） 原（機械）	DD		2 年間		同志社 1.5 年間			10 ヶ月 以上	
		ND		✓	✓	✓		✓	✓	✓
リヨン		DD		2 年間		同志社 1.5 年間			10 ヶ月 以上	
		ND（E）			✓	✓		✓	✓	✓
マルセイユ		DD		2 年間		同志社 1.5 年間			10 ヶ月 以上	
		ND			✓	✓		✓	✓	✓
		ND（E）			✓	✓		✓	✓	✓
ナント		DD		2 年間		同志社 1.5 年間			10 ヶ月 以上	
		DD（E）		1 年間		同志社 1.5 年間				
		ND		✓	✓	✓		✓	✓	✓
		ND（E）		✓	✓	✓		✓	✓	✓
セントラルスピレック		DD		2 年間		同志社 1.5 年間			10 ヶ月 以上	
		ND		✓	✓	✓		✓	✓	✓

大学名	窓口教員	種別	学部		博士（前期）課程			博士（後期）課程		
			3年	4年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
パリ市立工業物理化学高等専門大学 (ESPCI Paris)	松川（電気） 原（機械）	DD （一部E）			2年間					
		ND		✔	✔	✔		✔	✔	✔
リール国立化学高等専門学校 (ENSCL)	小寺（化学） 北岸（化学）	DD		2年間		同志社 1.5年間				
		DD			2年間		同志社 1.5年間			
		ND（E）			✔	✔		✔	✔	✔
エクス・マルセイユ大学 理学部（AMU） ポリテック・マルセイユ ※一部英語の授業あり	小寺（化学） 北岸（化学）	ND			✔	✔		✔	✔	✔
ソルボンヌ大学 （Sorbonne）	松川（電気） 原（機械）	ND		✔	✔	✔		✔	✔	✔
パリ国立高等鉱業学校 (Mines ParisTech)	多久和(機械) 三木（数理）	ND		✔	✔	✔		✔	✔	✔
パリ・シテ大学　基礎生物医工学部 ※一部英語の授業あり	小寺（化学） 北岸（化学）	ND		✔	✔	✔		✔	✔	✔
イタリア										
ミラノ工科大学(POLIMI) ★ ※博士(後期)課程の DD は要相談。 ※学部 ND は主にイタリア語	宮本（機械） 笹田（機械）	DD（E）		2年間		同志社 1.5年間			1.5年 以上	
		ND（E）	※	※	✔	✔		✔	✔	✔
トレント大学大学院 社会学・社会調査学研究科	野口（生命）	ND（E）			✔	✔				
スペイン										
マドリッド工科大学　生産工学部 通信工学部 （UPM） ★ ※一部のコースについては、学部3年次から派遣可能（ただし授業言語はスペイン語）	宮本（機械）	DD（E）				1.5年間	同志社1年間			
		ND（E）	※	※	✔	✔		✔	✔	✔
ポルトガル										
リスボン大学 高等工科学院（IST）★	松川（電気） 原（機械）	ND（E）		✔	✔	✔		✔	✔	✔

大学名	窓口教員	種別	学部		博士（前期）課程			博士（後期）課程		
			3年	4年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
ベルギー										
モンス大学(UMONS) ★ Electrical Engineering コースは英語	加藤（情報） 小野（情報）	DD			2年間		同志社 1.5年間			
		ND			✓	✓				
オーストリア										
ウィーン工科大学(TUW) ★ ※DDは医用生体工学研究科のみ。 ※NDは一部英語の授業あり	松川（電気） 原（機械）	DD（E）			1.5年間		同志社 1年間			
		DD（E）				1.5年間	同志社1年間			
		ND		✓	✓	✓		✓	✓	✓
チェコ										
チェコ工科大学(CTU) ★	松川（電気） 原（機械）	ND（E）		✓	✓	✓		✓	✓	✓

５．出願資格

出願資格については、**プログラム共通で設定されている要件**や**協定校ごとに設定されている要件**があり、プログラムに応じた要件を満たす必要があります。特に、協定校によって**出願可能な課程・学年が異なる**ため、本要項をよく確認し、生命医科学部・生命医科学研究科事務室に事前相談してください。

	ダブルディグリープログラム	学位取得を目的としない 留学プログラム
＜協定校共通要件＞	① 出願時点での**累積 GPA が 2.8 以上**であること ② 出願時点で 12 ページ 8.語学能力に記載のスコア以上のスコアを有していること	一定基準以上の単位を修得し、累積 GPA や語学能力を示す証明書から優秀であると認められる能力を有していること。
＜協定校独自要件＞	原則として、協定校での授業言語については、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）における B1 もしくは B2 以上の能力を有していること。	ダブルディグリープログラムと同様に、協定校での授業言語に関して、一定レベル以上の能力を有していること。

６．選考スケジュール

派遣学生としての選考は、概ね下記の流れで実施されます。プログラムによっては、語学能力試験や協定校面接が省略される場合もあります。

出 願 ➡ 書類選考 ➡ 語学能力試験 ➡ 総合面接 ➡ 協定校へ推薦 ➡ 協定校面接 ➡ 最終選考結果通知

また、大半のプログラムは、**2027 年秋学期から留学開始**となり、協定校により前後する場合はありますが、下記のようなスケジュールで実施予定です。（※協定校との兼ね合い等により変更される場合もあります。）

＜選考スケジュール（予定）＞

出願	2026 年 12 月 1 日～2026 年 12 月 14 日
書類選考	2027 年 1 月中旬まで
語学能力試験（筆記・口頭試問など）	2027 年 1 月下旬～2 月上旬
総合面接	2027 年 2 月上旬～2 月下旬
協定校へ推薦	協定校が指定するタイミング
協定校面接（※協定校により異なる）	協定校が指定するタイミング
最終選考結果通知	2027 年 5 月下旬～2027 年 6 月中旬

※書類選考や総合面接等の結果により、留学先が変更される可能性があります。また、受入の最終判断は協定校が行うため、本学からの推薦後、留学不可となる可能性があります。

※災害や世界情勢、感染症等の拡大状況によって、協定校の募集状況、選考日程、選考方法を含め、本要項の内容および取り扱いについて、変更する場合があります。また、状況により、本学または本学部･研究科が派遣中止または帰国勧告等を当該留学生に下すことがあります。

７．出願時提出書類

派遣留学を希望する場合は、出願前に生命医科学部事務室に相談の上、留学中や帰国後の履修計画については、所属学科・専攻の教務主任もしくは指導教員より指導を受けてください。

＜出願時提出書類一覧＞

	ダブルディグリープログラム	学位取得を目的としない留学プログラム
①派遣留学申込書（所定用紙）	◎	◎
②保証人留学同意書（所定用紙）	◎	◎
③履歴書	◎	◎
④志望理由書	◎	◎
⑤留学先での研究計画書	○ （留学開始時期に大学院に在籍している場合のみ）	○ （留学開始時期に大学院に在籍している場合のみ）
⑥成績証明書	◎	◎
⑦英語能力を示す証明書	◎	△
⑧留学先言語（英語以外）の能力を示す証明書	△ （協定校が必要とする場合）	△ （協定校が必要とする場合）
⑨パスポート（コピー）	◎	◎

出願時提出書類に関する補足説明

①、②所定用紙

③A4 自由書式、英文（氏名・国籍・生年月日・住所・電話番号・E メールアドレス・学歴の記載要）

④A4 自由書式、英文と和文を 1 通ずつ（氏名・希望する大学名や学科・専攻の記載要）

⑤A4 自由書式、英文と和文を 1 通ずつ（氏名・希望する大学名や学科・専攻および研究室の記載要）

※留学開始時に大学院に在籍している場合のみ提出。作成にあたって予め留学先指導教員等と研究分野や課題について打ち合わせを行うこと。

⑥2026 年度春学期までの成績が反映されたもの、英文

※証明書発行機を使用し、出願者本人が発行すること。

⑦コピー提出可。出願日を起算点とし、過去 2 年以内に受験したものに限る。

ダブルディグリープログラムの場合は、「12 ページ　８．語学能力」に記載のスコア以上の証明書の提出が必須です。

⑧コピー提出可。スコア目安は大学別詳細情報を参照すること。

※現時点で持っていれば提出。留学開始までに各大学の目安レベルを満たす証明書を取得すること。

⑨顔写真ページのコピーを提出すること

なお、所定用紙は、生命医科学部･生命医科学研究科ホームページよりダウンロードすること。

https://biomedical.doshisha.ac.jp/biomedical/international/international.html

8．語学能力

【英語】

試験	スコア目安	証明書の提出について
TOEFL iBT® TEST TOEFL iBT® Home Edition （旧TOEFL iBT® Special Home Editionで取得したスコアは利用不可。）	2026年1月21日以降に受験した者： 4以上 2026年1月20日以前に受験した者： 79以上	インターネット上のスコア確認画面のコピーも提出可能。 表示画面全てを印刷すること。
TOEFL ITP® TEST	550	本学で受験したスコアのみ提出可能。証明書記載の”Name of Institution”が”Doshisha University”であること。 ”Doshisha High School”などの場合は受付できない。
IELTS	5.5	インターネット上のスコア確認画面のコピーも提出可能。 表示画面全てを印刷すること。
TOEIC® TEST （TOEIC®LISTENING AND READING TEST）	750	証明書のコピー提出可能。 TOEIC IPテストは認めない。
英検	準一級	証明書のコピー提出可能。

※出願日を起算点とし、過去2年以内に受験したものに限る。

【CEFR】Common European Framework of Reference for languages：ヨーロッパ言語共通参照枠

フランス語

CEFR	DELF・TCF	仏検
B2以上	B2以上	準1級以上
B1	B1	2級
A2	A2	準2級

ドイツ語

CEFR	GOETHE ZERTIFIKAT	独検
B2以上	B2以上	準1級
B1	B1	2級
A2	A2	3級

スペイン語

CEFR	DELE	西検
B2以上	B2以上	2級以上
B1	B1	3級
A2	A2	4級

イタリア語

CEFR	CILS	伊検
B2以上	B2以上	準2級
B1	B1	3級
A2	A2	4級

英語

CEFR	TOEFL iBT® （旧120点満点）	TOEFL iBT® （新1.0～6.0）	TOEIC
B2以上	72以上	4以上	785以上
B1	42～71	3～3.5	550～784
A2	-	-	～549

【CEFR 自己評価の目安（簡略版）】

		A1	A2	B1	B2	C1	C2
理解する	聞く力	はっきり、ゆっくりと話してもらえれば、聞きなれた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。	身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。	特別の努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難なく理解できる。
	読む力	掲示やポスター、カタログなどの中の良く知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	ごく短い簡単なテクストや簡単で短い個人的な手紙は理解できる。	日常語や、自分の仕事関連のテクストなら理解できる。簡単な私信を理解できる。	現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	複雑なテクストを理解できる。自分の関連外の分野での専門的記事も理解できる。	抽象的で複雑なテクストなど、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。
話す	会話力	必要なことや身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。	短い社交的なやり取りをすることができる。	日常生活に直接関係のあることや個人的な関心事について、準備なしで会話ができる。	身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	社会上、仕事上の目的に合った言葉使いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。
	表現力	住んでいるところ、また知っている人たちについて簡単な語句や文を使って表現できる。	家族、周囲の人々、居住条件、を簡単な言葉で説明できる。	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。
書く	書く力	お祝いのメッセージなど、短い簡単な言葉を書くことができる。	簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。私信や経験や印象を書くことができる。	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。

TOEFL iBT、TOEFL ITP および TOEIC はエデュケーショナル・テスティング・サービス （ETS）の登録商標です。

９．留学費用

（１）学費・学費以外の費用について

派遣留学の場合に必要とされる関連費用については、原則として以下のとおりです。

1. **同志社大学には継続して学費を納入**していただきます。ただし、ダブルディグリー制度で留学する場合、**留学期間中の同志社大学へ納入する学費は特別在籍料（15 万円/学期、30 万円/年）**となります（例外的に一部実験費等を負担いただく場合があります）。
2. 現地での生活費：住居費、食費等は**学生個人の負担**となります。
3. 渡航費、留学用海外旅行保険、入国ビザ申請費用等も**学生個人の負担**となります。

> 留学費用は十分余裕を持って準備し、親族・保証人等と事前によく相談・了解を得た上で応募申請してください。留学先国･地域への入国ビザ申請の際、滞在期間中の十分な生活資力を証明するため、学生本人または経済的負担者の銀行残高証明書等の提出が必要になる場合があります。

（２）奨学金・奨励金

同志社大学では、本学正規学生・大学院の正規学生を対象に、外国派遣留学促進のための奨学金制度を用意しています。
また、日本から海外へ留学される方を対象とした自由応募の奨学金をご案内しています。
詳しくは本学国際課の HP をご確認ください。
同志社大学　国際課：https://international.doshisha.ac.jp/scholarship/overview.html

その他、留学先の政府や大学が奨学金制度を設けている場合もあります。
日本学生支援機構（JASSO）の HP から検索することもできますので、それぞれの留学先の奨学金制度などについて、事前に調べるようにしてください。
JASSO：https://www.jasso.go.jp/index.html

出願に際し、大学側で準備すべき提出書類などが要求されることがあります。書類の準備等に時間がかかることもありますので、必ず早めに確認し、生命医科学部事務室まで相談するようにしてください。

１０．留学中の安全確保と危機管理

（１）留学用海外旅行保険

本学では留学中のケガや病気に備えられるよう、保険会社と協定を締結し、割安な保険料で申し込める海外留学保険を提供し、加入をお願いしています。

＊国際課「留学用海外旅行保険／Study Abroad Insurance」：
https://international.doshisha.ac.jp/safetycontrol_insurance_ossma/insurance_and_ossma.html

（２）危機管理システム

本学は派遣留学生全員に、日本エマージェンシーアシスタンス株式会社が提供する留学生のための総合危機管理システム「OSSMA」への登録を義務づけています。留学期間中、同システムより各学生に安否確認メール等が定期的に届きますので、必ず速やかに返信するよう心掛けてください。

＊日本エマージェンシーアシスタンス株式会社（EAJ）「留学生危機管理サービス（OSSMA）」：
https://emergency.co.jp/service/education/

留学先の国・地域の安全・治安状況によっては、本学または本学部･研究科が派遣中止または帰国勧告等を当該留学生に下すことがあります。これには速やかに従ってください。ただし、各種キャンセル費用、帰国費用等は当該学生自身の自己負担となります。渡航(予定)先の安全情報を常時確認して、安全で快適な留学プランを立ててください。

＊国際課「海外渡航時または滞在中の安全管理について」：
https://international.doshisha.ac.jp/oia/safetycontrol_insurance_ossma/safety_control.html

＊外務省「海外安全ホームページ」：http://www.anzen.mofa.go.jp/

（３）オンライン在留届

日本国籍保有者は、旅券法第 16 条によって、外国に住所又は居所を定めて 3 ヵ月以上滞在する日本人は、住所又は居所を管轄する日本の大使館又は総領事館（在外公館）に「在留届」を提出するよう義務付けられております。緊急時には、登録者に在外公館からの緊急一斉連絡メールなどが届きます。
オンラインにて申請できますので、海外での住所確定後すぐ手続きするようにしてください。

＊外務省「オンライン在留届 ORRnet　電子届出システム」：
https://www.ezairyu.mofa.go.jp/index.html

１１．留学決定後の諸手続き

（１）留学決定後の注意

留学決定後の諸々の手続きは、本学部･研究科のサポートを受けつつ、**学生自身が自己責任のもと進める必要があります。**派遣留学候補者に選ばれた後でも、学業不振、提出書類の締切を守らない、必要な手続きを行わない、説明会やオリエンテーションに出席しないなど本学部･研究科の代表としてふさわしくないと判断された場合、出発前・渡航後を問わず留学中止の勧告を発出することがあります。

（２）入国のための学生 VISA 申請手続

留学に必要な査証（ビザ）取得手続きは、自己責任で行ってください。査証（ビザ）が得られない場合、留学決定後であっても留学できなくなります。

たとえば、フランスに留学する場合、協定による派遣留学でも、フランス政府留学局･日本支局への事前登録が必要です（http://www.japon.campusfrance.org/ja/）。他の国･地域でも、本学からの在籍証明書等が必要な場合があるので、本学部･研究科から選抜された時点で、関連手続きについて当該大使館等に照会、情報収集を始めてください。

（３）入学前の語学研修

協定相手校から、留学先での学期･学年開始前に**現地での語学研修を強く勧められる場合があります。**実施機関の選定、諸手続き、費用等はすべて学生本人の自己負担･自己責任となります。なお、フランスの一部協定校（エコール・セントラル等）に留学する場合、フランス語研修料の割引制度が受けられる実施機関（CAVILAM 等）があります。

（４）交換留学や国際交流の活性化への参加・協力

派遣留学候補者は、本学部･研究科の交換留学や国際交流の活性化に積極的に参加することが求められます。後輩への情報提供、本学部･研究科の広報への協力（写真の提供、広報誌の記事の執筆）、留学フェアや帰国報告会、各種ガイダンスやオープンキャンパス等への参加要請があった場合には協力をお願いします。

（５）書類・報告書の提出

派遣留学候補者は、本学部･研究科が指示する書類や定期的な報告書の提出が必要になります。留学中および留学後は、留学先での授業科目シラバス（英訳）など単位認定に必要な資料も提出をお願いします。

過去に留学した先輩や留学中の方々からの定期報告書はとても参考になりますので生命医科学部事務室にて閲覧して下さい。

また、その他生命医科学部･研究科からの指示・指導がありましたら従ってください。